

令和2年度 さいたま市立植水中学校 自己評価書

校長 茂木里仁



1 学校で設定した「令和2年度の目標」及び関係する「評価項目」について

- (1) 基礎・基本の徹底指導と、個に応じた教科指導の充実を図る。「数学力・国語力の向上」を図る。
- (2) いじめ・不登校ゼロを目指し、「チーム植水中」として組織的な生徒指導と教育相談活動を推進する。
- (3) 特別支援教育において、交流及び共同学習などを通じ、障害についての理解を深め、思いやりと優しい心をはぐくむ
- (4) 非常変災等に備えて避難訓練を行うとともに、地域社会の力となる生徒を育成する。地域と連携した教育活動を推進する。
- (5) 業務の効率化を図り、互いに気持ちよく仕事に励める職場環境づくりに努力する。

2 評価結果について

- (1) 生徒の評価では、①「授業の内容はわかりやすい」②「新しいことを学ぶ授業は楽しい」について肯定的に回答した割合は、①97.1%、②86.8%。「授業で自分の考えを發表することができる」については、73.4%で、自信をもって自分の考えを發表することに課題がある。学力学習状況調査では、数学において市の平均を下回っており、課題がある。
- (2) 生徒の数学、国語の学習に対する関心を高めるために、基礎的な問題に取り組む「朝チャレ」を実施した。『朝チャレ』の取組で学習への関心が高まったかの質問に対して肯定的な回答は生徒72.6%、保護者69.2%（よくわからない23%）であった。効果的な取組とするため、問題の精選、事前事後指導の充実を図る。
- (3) 本年度いじめ事案は1件であった。毎月定期的にいじめに関するアンケートを実施し、早期発見に努めた。不登校生徒は7名で、昨年同時期より増加した。定期・不定期にさわか相談室へ登校ができる生徒2名、学習室へ登校ができる生徒1名、外部機関へ定期的に通う生徒1名、家庭訪問により本人に会える生徒3名。「いじめをなくすよう日頃から行動している」生徒は86.2%だが、「学校はいじめ撲滅に関しての取組を行っている」に肯定的回答をした保護者は74.5%だった。保護者へ取組の成果や課題を伝えていく必要がある。
- (4) 特別支援学級では、交流学級での給食の時間、帰りの会への毎時間参加、体育祭、合唱コンクールへの参加を中心に行った。また、通常学級から特別支援学級へ1名、特別支援学級から通常学級へ1名の形態変更があった。
- (5) 今年度、進路指導・キャリア教育の研究を進めた。目指す生徒像を明確に設定し、教育活動全体を通じて取り組みを行った。研究発表会は感染症予防のため、校内のみの開催とし、数学、総合的な学習の時間、特別活動の研究授業を公開した。3年間の取り組みを通じて生徒の基礎的汎用的能力の向上が見られた。
- (6) 業務改善としては、朝夕の家庭からの電話連絡を教職員の勤務時間内とし、保護者の協力により成果を得た。
- (7) 男子バスケットボール部、男子バレーボール部を新たに設立することで、生徒の自己実現の場を増やした。

3 次年度に向けた具体的な改善策について

- 新学習指導要領全面実施の年度として、新学習指導要領に準拠した教育課程の実施を進める。
- 今年度より「防災教育」の委嘱を受けている。災害、防災に係る知識を習得させるとともに、地域に貢献できる生徒を育成することを目標として3年間の研究に取り組む。避難所開設訓練への生徒の参加等により、地域と連携した教育活動を推進する。
- 「輝き事業（地クリン活動）」「西区読書会」等により、植水小学校、近隣高等学校と連携した事業を実施する。

※ A4判1枚程度に簡潔にまとめる。教育委員会に写しを提出する。

令和2年度 さいたま市立植水中学校 学校関係者評価書

さいたま市立植水中学校

学校関係者評価、委員長 吉岡 由和



1 学校関係者評価の実施体制

(1) 構成人数 9名

(2) 実施回数 2回

2 学校関係者評価（学校関係者評価委員の意見等）

- (1) 「朝チャレ」の取組のおかげで、子どもの学習への取組が変わった。放課後自習室の開放も、子どもたちの自主学習の助けになっている。今後も継続してほしい。
- (2) 部活動は、好きなことをしながら、将来の夢や生きがい、楽しい思い出をつくるものとして大切な活動である。その点で、今年度、バスケットボール部（男子）、バレーボール部（男子）が新設されたことは評価できる。さらに、文化部の充実が図られることを期待する。
- (3) 校内の整備に尽力しており、清潔感が一層感じられるようになった。掲示物なども工夫されており、生徒の学習意欲が高まる工夫がされている。
- (4) 登下校中の生徒に道で会うと、よくあいさつをしてくれる。今後も、地域の者と気持ちのよいあいさつができるよう継続して指導していただきたい。
- (5) 「防災教育」や「輝き事業（地域クリーン活動）」などをとおして、地域と学校の間を大切に学校経営を展開されていることが評価できる。
- (6) 地域に毎月配付される学校からの便りで、学校の様子がよくわかる。継続していただきたい。
- (7) 保護者アンケートにおいて、「よくわからない」という評価に○をつける保護者が多くみられた項目については、学校で実施している取組について保護者の皆さんに情報を発信するよう改善できるとよい。
- (8) 特別支援教育も、生徒が思いやりと優しさ、障害に対して正しい理解を深めて、実施できている。

学校関係者評価を受けた学校の対応

- (1) 「朝チャレ」「放課後自習室の開設」については来年度も継続するとともに、生徒の基礎学力向上を目的とした取組に一層力を入れていく。
- (2) 来年度の学校課題研究については、①全ての子どもたちの可能性を引き出す個別最適な学び、②防災教育の2本を軸として、生徒が相互に協働しながら、主体的に学力向上に取り組む生徒の育成を目指す。
- (3) 大きな声であいさつができ、大きな声で校歌を歌える生徒の姿を目指して、継続して取組を行っていく。
- (4) 「防災教育」等を通して、自分の力を高めるとともに、地域に貢献できる生徒の育成を目指す。

さいたま市立植水中学校長 茂木 里仁

